

第3回 2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議
(議事概要)

1 開催日時

令和5年5月17日(水曜日) 14時00分から14時55分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎 42階北塔 特別会議室B

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	生活文化スポーツ局次長
スポーツ庁	八木 和広	参事官(国際担当)
公益財団法人日本オリンピック委員会	靱井 圭子	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事
弁護士	三好 豊	
公認会計士	中村友理香	

(欠席のため意見代読)

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟
東京都

4 要旨

【全日本ろうあ連盟 久松事務局長 挨拶】

- ・本日は、お忙しいところ、第3回2025年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・私から、一言、ご挨拶を申し上げます。
- ・3月の第2回会議では、大会運営組織における令和5年度の事業計画(案)及び予算(案)等について皆様にご確認をいただいた。
- ・本日は、2025年大会の大会運営組織である、ろうあ連盟内に4月に設置したデフリンピック運営委員会における検討状況と大会開催基本計画策定に向けた今後の進め方、及び令和5年度のデフリンピックの都内気運醸成に向けた取組についてご報告をさせていただきます。
- ・この後、運営委員会からの報告で詳細にご報告させていただきますが、大会エンブレムについてもデザインが夏頃に決定する予定であるなど、今年度は、より一層、準備・運営が

本格化していくこととなる。皆様のご意見、ご助言をいただきながら、大会の成功に向けて着実に準備を進めていきたい。

- ・引き続き皆様のご協力をお願いします。

【資料説明】

○運営委員会における検討状況（デフリンピック運営委員会）

①2023 年度事業計画「大会エンブレム制作（案）」

- ・大会エンブレムについては、大会開催の意義を込めるため、三点の作成方針を示している。
- ・まず一点目は、きこえない人が主役となって制作すること。デフリンピックに際し、デフアスリートだけでなく、他のきこえない人にも光をあてるという考え方で進めていく。
- ・二点目は、次代を担う若者に参画してもらうこと。エンブレムについては、次代を担う若者が作り、次代を担う若者が決める形にしたい。
- ・三点目は、きこえない人ときこえる人が協働すること。きこえない学生と都内の中高生の子どもたちが、エンブレムのデザイン案について意見交換ができる場を設けることで、目指すべき共生社会を体現する作成プロセスとしたい。
- ・大会エンブレムが、都民の皆様への共生社会実現に向けたメッセージとなる。エンブレム制作にあたり、国立大学法人筑波技術大学及び東京都と連携・協力し、進めていく。
- ・候補案を複数作成していただき、きこえない学生と都内の中高生の子どもたちがグループワークの形で意見交換を行い、デザインを絞り込み、最終的に投票を行い決定していく。

②2023 年度事業計画「全国への気運醸成の推進事業（案）」

- ・2025 年デフリンピック招致プレゼンで掲げた大会コンセプト「デフアスリートを主役に、そしてデフスポーツの魅力を伝え、人々や社会とつなぐ」を踏まえ、全国へ2025年デフリンピックへの気運醸成を推進する。
- ・目的は全国各地でイベントを実施することで、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知の向上を図り、ひいては2025年デフリンピックへの気運醸成を推進する。
- ・イベント実施個所は、全国8ブロックを考慮しており、北海道、東北、関東、東海、北信越、近畿、中国・四国、九州を想定している。
- ・イベント内容は、「みる」「する」「ささえる」、この3つを体験することを基本とした。内容は、啓発映画上映、デフスポーツ・パラスポーツ体験、講演、パネルディスカッション、パネル展示などを考えている。
- ・イベント実施にあたり、地域の社会資源、例えば、アスリート、当事者団体、支援団体、

自治体、スポーツ関係団体等との連携を支援し、イベントを通して、きこえない人ときこえる人との協働による共生社会実現に向けたメッセージとなるようにしたいと考えている。

③2023年度事業計画「社会的・文化的プログラムの検討（案）」

- ・デフリンピック規約では、「組織委員会は、選手その他参加者がレクリエーションプログラムを利用できるようにする。このプログラムには、開催都市のための社会的・文化的プログラムに関する情報を含む」とされている。
- ・このプログラムについて、外国からの選手、観客等だけではなく、全国への気運醸成に資するよう、本年度は検討に着手したいと考えている。
- ・検討にあたり、きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者、東京都等と連携・協力していく。
- ・きこえない人の芸術文化活動や手話言語文化を国内外の人に触れてもらうことを機に、招致プレゼン「デフリンピック・ムーブメント“誰一人取り残さない世界（SDGs）”の実現」につなげる。

○大会開催基本計画について（東京都）

- ・デフリンピック大会の開催基本計画の策定について説明する。
- ・開催基本計画は、昨年、全日本ろうあ連盟が招致のために作成した基本計画をベースに、今年度、準備運営の体制が整ったこともあり、改めて検討状況の進捗も踏まえた反映を、運営にかかわる三者でとりまとめるものである。
- ・開催基本計画は、大会ビジョンや、競技会場、宿泊・輸送など、大会の実務面の計画で構成され、全日本ろうあ連盟、東京都、東京都スポーツ文化事業団の三者で作成する形で進めたい。
- ・大会運営の部分につきましては、障害者当事者の視点や、過去大会の知見を計画に反映させるために、東京都スポーツ文化事業団内にデフリンピック大会運営にかかるアスリート会議（仮称）を設置して計画を作成していきたい。
- ・また、ユニバーサルコミュニケーションや会場の情報保障、子供の参画などに関する検討状況を反映させたい。大会の2年前のタイミングで公表したい。
- ・次に、作成スケジュールだが、まず8月頃に大会概要公表ということで、大会ビジョンや競技会場などの基本的な情報を公表し、最終的には大会の2年前となる11月に、その他宿泊輸送等の大会準備にかかる計画を盛り込んだうえで公表したい。
- ・アスリート会議の構成については、デフリンピアン2名、オリンピック1名、パラリンピアン1名を予定しており、必要に応じて大会運営へのアドバイスをいただける方にオブザーバーとして参加いただくことも検討している。

○令和5年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組について（東京都）

- ・デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組について説明する。

- 大会開催時の到達点として、スポーツが本来持つ、喜びや感動、人とのつながりなどを誰もが享受できるスポーツムーブメントを創出することを目指す。また、デジタル技術などを活用し、言語や障害など、多様なバックグラウンドを持つ人々が共に生きる社会づくりに貢献することを目指す。
- そのために、気運醸成については、今年度は「大会を知ってもらう」、来年度は「大会のファンを増やす」、大会開催年度である再来年度は「大会に参画する」ための取組を進めていく。
- また、ユニバーサルコミュニケーションについては、今年度は「先進技術の開発促進」、来年度は「試験活用」、大会開催年度は「本大会での活用・社会実装」の取組を進めていく。
- 気運醸成については、今年度、特設 Web サイトを開設し、大会概要や国内外のデフアスリート紹介、分かりやすく手話を学べるコンテンツ等、幅広い情報を発信する取組を進めていく。また、デフリンピック 2 年前の取組として、デフリンピックの認知度向上に加え、共生社会への理解を促進する取組を実施するとともに、大会の魅力発信のため、デフリンピックの PR 動画などを制作し、様々な媒体を活用して国内外へ広く発信する等の取組を進めていく。
- また、ユニバーサルコミュニケーションについては、展示会や各種イベント等の場を通じた、デジタル技術の PR や実証、新たな技術開発の促進を図っていく。

【意見交換】

○東京都 渡邊次長

- デフリンピック大会まで 2 年半を切り、今年度は大会準備を加速していかなければならない。
- そのため、4 月 1 日付で大会の運営実務を担う東京都スポーツ文化事業団内にデフリンピック準備運営本部を設置し、2020 大会を経験した職員を含む、都職員を派遣するなど、大会の開催に向け体制の強化を図った。
- また、先ほど事務局から報告のあった大会開催基本計画の策定については、招致の段階の計画はあるが、運営体制が出来上がりつつあり、また実際の運営について委員の皆様にもご相談している中で、今一度きちんとしたものを作り、方向性を分かりやすく示しつつ、サービスレベルも定義しながら、揺るぎない計画を作っていく必要がある。そのためにも、しっかりと当事者の意見を聞きながら、関係者と連携して準備を進めていく。
- また、気運醸成に向けた取組として、先週 5 月 10 日に、都・ろうあ連盟共同で、大会エンブレム作成に係る学生向けのオリエンテーションも開催した。こうした取組に加え、様々な気運醸成の事業や、ユニバーサルコミュニケーションの活用・普及拡大に向け、ろうあ連盟とも連携しながら着実に実施していく。
- 事業を進めていくうえで、ガバナンスが問われており、特に契約の透明性・公正性の確保が不可欠である。先月、第一回契約・調達管理会議を開催したところである。今後も

都民・国民の理解を得るべく、国の指針や先に公表した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を踏まえ、ガバナンス確保に向けた取組を進めていく。

- ・2025年には東京で世界陸上も開催予定であり、スポーツ行政においても重要な年になる。引き続き、皆様のご助言、ご支援をいただきながら、足並みを揃え、円滑に準備運営を進めていきたい。ご協力をお願いします。

○スポーツ庁 八木参事官

- ・昨今の東京2020大会の一連の事案を踏まえ、スポーツ庁とJOCでプロジェクトチームを設置し、今後の大会の透明性や公平性の指針を議論し、3月末に「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」を公表した。デフリンピックの運営は、組織委員会のような形ではなく、ろうあ連盟内の運営委員会と、東京都の関係団体である事業団との両輪の体制で行うと聞いており、契約や理事会は本指針に則った形で実施してもらいたい。
- ・大会をしっかりと開催することが何よりも重要であり、早めに大会開催に向けたロードマップを作成し、ロードマップに則り着実に準備を進めてもらいたい。

○JOC 萩井常務理事

- ・まず、大会ビジョンは共通のものを早めに作成することが重要だと考える。気運醸成の施策についても、それぞれろうあ連盟と事業団の計画となっているが、両者で大会ビジョンの共有がされないと効果が半減してしまう恐れもある。
- ・また、大会開催までに何をどのタイミングで誰が主体となって実施していくのか、行程表や役割分担を両者で固めることが重要である。
- ・大会運営については、今後、事業団内に設置予定のアスリート会議で、アスリート当事者の意見を聞くのもよいが、一方で大会運営は大会実務関係者の視点も重要と考える。その意味で、競技ごとの大会運営の実務経験者からの助言をいただく場を、早い段階で設けておいた方がよい。

○JPSA 藤原常務理事

- ・気運醸成に向けた取組について、デフリンピックの認知度は低く、誰もが知るデフアスリートが浮かびにくいという現状がある。パラリンピックも東京大会の前は同様の状況があったが、効果的に情報発信を行い、気運醸成に向けて進めていく必要がある。
- ・エンブレムの作成に関して、次代を担う若者に参画してもらい決定していくことも大事だが、さらにその先の気運醸成に向けた発信にあたっては、若者が中心となることが理想である。

○三好弁護士

- ・運営委員会のメンバーが決定したとのことだが、ガバナンスの観点からは、運営委員会の権限や義務、理事会による運営委員会のコントロール等に関するろうあ連盟内部のルールを作成し、しっかりと運用していくことが重要と考える。

○中村公認会計士（事務局代読）

- ・今回の報告では、アスリート会議が設置され、当事者の意見を踏まえた大会開催基本計画を策定していくとのことだが、委員へ支払われる謝金については事務局となるスポーツ文化事業団内で適用できる既存の規定がなければ、新たに策定する等の対応をしていただきたい。

○東京都スポーツ文化事業団

- ・事業団の中にも講師への支払い基準等あり、それらに準拠して対応して参りたい。

【意見交換総括】

○事務局

- ・本日のまとめをしたい。
- ・運営委員会における検討状況、大会開催基本計画策定に向けた今後の進め方、都内気運醸成に向けた取組について、皆様にご確認をいただくことができた。その他、意見をいただいた部分は、今後の準備・運営に反映していく。
- ・次回は8月の開催を予定しており、具体的な開催時期については改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・皆様からのご指摘、ご意見も踏まえ、大会の成功に向けて準備を進めていきたい。今回の会議は、これで閉会とする。